▲イザナギ打上げのパブリックビューイングの様子

強みや特長を教えてください。

大西：宇宙ビジネスの発展には、宇宙から得たデータが、実際に人々の生活に役立つサービスになっていくことが必要です。福岡県は元々、ITやソフトウェアの企業が集積しているので、ハードとソフトが両輪となってサービスを生み出していく土壌があることが強みだと思います。

當房：私は久留米が地盤ですが、筑後地方は製造業の歴史が古く、業種が多岐にわたっていて、それぞれの技術力は世界でも十分戦えるレベルです。また、地理的にも九州のハブとして各地との交流があることも強みなので、教育・研究機関との連携により、さらに奥行きのある技術革新が可能になると思います。

知事：心強いお言葉です。令和2年9月、お二人をパネリストにお招きした「福岡県宇宙ビジネスフォーラム」では、約200人が参加し、ウェブ配信でも300人が視聴し、宇宙への関心の高まりを実感しました。今後、お二人に続く人が増えていくことを期待しています。

宇宙ビジネスへの期待 県民の皆さんへのメッセージ

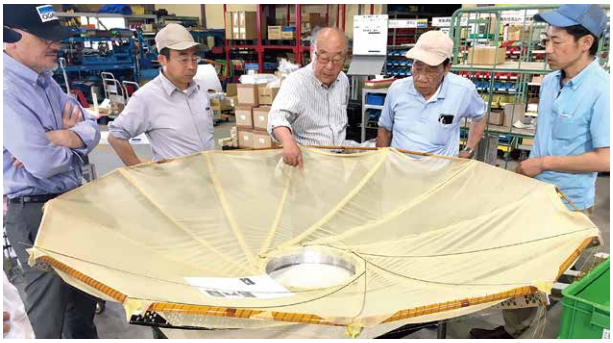
知事：最後に、宇宙を夢見る子どもたちや宇宙ビジネスへの参入を目指す企業に向けてメッセージをお願いします。

大西：私が宇宙に興味を持ったのは小学生の頃、ペットボトルでロケットを作る科学教室に参加したことでした。試行錯誤して最後には上手に飛ばせた経験が今につながっています。皆さんも失敗を恐れず、まずは一歩踏み出してみてください。また、宇宙ビジネスに関心のある人は、他業種の人と知り合う機会をいかに多く持つか、業種を問わず同じ思いを持って高め合うことが大切です。県主催の「福岡県宇宙ビジネス研究会」などの交流会にぜひ積極的に参加してみてください。私も、宇宙ビジネスを目指す皆さんと語り合いたいです。

當房：行動力は大事ですよね。私たちも13年前の講演会を聞いたから新しい挑戦に踏み出せました。出会いの場が新しい何かを生むのだと思います。そして最初の旗上げ役になって周囲を巻き込むことも重要ですね。

知事：子どもたちにはいろんなことに挑戦して、面白いと思ったことは続けてほしい。失敗してもその原因を考え、行き詰まったとしても試行錯誤しながらやり続けてほしい。それを実践してこられたのがお二人だと思います。

また、當房さんは13年前、まさに旗上げ役となって仲間を集められました。県では、その橋渡し役として、これからも業種を越えた出会いや交流のきっかけの場を作っていきます。とりわけ、令和2年は新型コロナウイルスにより多くの事業者が影響を受けました。ピンチをチャンスに変えるため、新しいビジネスに挑戦して未来を切り開く企業を力強く後押ししてまいります。



▲試作アンテナを囲むe-SETのメンバーの皆さん

●超小型レーダー衛星「イザナギ」とは？

令和元年12月11日、インド・サティシュ・ダワン宇宙センターから打ち上げられた。夜間や悪天候時も地表面を観測でき、車の判別もできるほどの高解像度の性能を持つ。衛星本体は県内企業16社をはじめ、九州の地場企業が協力して開発。令和2年12月以降、2号機「イザナミ」を打ち上げる予定。

手前にあるのは、衛星開発の中で生み出された部品の数々

※この対談は、十分な距離の確保、換気の実施など、新型コロナウイルス感染症対策を講じ、10月26日に実施しました